

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症老人グループホームボンジュールそとめ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎市神浦丸尾町1180-3
記入者名 (管理者)	朝野 理恵子
記入日	平成 20 年 7 月 22 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は①人としての尊厳を尊重します。②地域で安心した生活を支援します。③安全に自立した生活を支援します。昨年同様この3つを柱に地域の中で継続して楽しくその人らしく生活していただけるようにとの全職員の思いで作られています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで話し合いつつ日々の生活の場面で具体的に実践活動するように取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの玄関に掲示しています。パンフレットやホーム便りにも掲載しました。地域の産業祭りにホームの活動状況を写真付で分かりやすく理解していただけるよう作成して出品しています。産業祭り展示で地域の方から見ましたとの声が聞けたので少しずつ理解して頂けてるようです。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶を交わしたり、近所のなじみのお店へ買い物へ出かけたり、ご近所の方からお花を頂いたりしています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加することで地元の人々と挨拶をかわしたりしています。鯉こい祭りはホームの前の神浦川の河川公園であり、ホームの前を往来する人が多くなります。産業祭りに出品、学校の運動会田植え見学、大瀬戸とんぼんさん見学、神浦散歩未知と地元の人々との交流に努めています。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の子供たちから体験学習の希望時は積極的に受け入れている。</p>	○	<p>特に取り組んでいる状況はありませんが今後出来る事がなにか話し合いできるだけ地域へ貢献していきたいと思えます。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を生かして改善できた点は運営推進会議への参加を長崎市高齢者すこやか支援課また地域包括支援センターより参加家族の方々に参加していただき2ヶ月ごとに開催しています。ナースコールを取り付け個々に応じてサービスに努めている事です。職員の研修会、勉強会などの計画を具体的に進めています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議でいろんな意見を聴きました。意見箱を玄関に設置しました。またホーム便りを運営推進員様にも配布するようになりました。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の研修会に参加したり、市町村へサービスについて不明な点は電話等で尋ねたりしています。また参考資料など送っていただいています。運営推進会議の参考書類、苦情対応、事故報告書式など担当職員の方から頂きホームで活用しています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会をして資料を各自に配布しています。ホームの玄関に資料を置きご家族様にも必要時に説明できるようにしています。新人職員にも資料を配布し説明しています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市の講習会の参考資料を職員へ配布し虐待防止に努めています。言葉による暴力を啓発しています。日浦グループで接遇、言葉使いについての研修会が講師を招いて今年一年間実施されますので全員参加し言葉による暴力防止できるように努めます。</p>		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は資料と共に説明をいたしました。また解約時は御家族様御本人様の納得を得ています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置をしました。また苦情への対応をどうするか職員間で話し合っています。苦情への書式を市町村より参考書類を頂き、ホームで活用したいところです。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりは毎月ホーム便りを発行しています。個々に応じて必要時は電話連絡や訪問時に説明します。受診は御家族様へ連絡し、また検査結果なども電話で連絡報告しています。金銭管理は個人ごとに小遣帳をつけています。ご家族様ご本人様と話し合いつつ買い物支援しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>無記名でアンケートを定期的にとり反映するようにしています。ホームの玄関へ意見箱を設置しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>社長、職員全員でボンジュールそとめ会議を毎月しています。この機会でのいろんな意見交換ができます。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整はなんとかやりくりしています。行事のときなどは多人数で対応しています。急な受診など勤務可能な職員へ連絡をとったりして勤務調整することもあります。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動で変わったりした場合は行事で交流できる機会があります。職員交代時は職員がコミュニケーションをとり早く個人の状態を把握するように努めています。</p>	

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームでの勉強会の計画を立てています。同じ関連グループの研修参加をしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連グループと交流、サービスの質向上に努めています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話し合いをするように努めています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援、本人が向上心を持ち自主的に取り組んでいくよう言葉がけをしています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される前にホームを見学していただくことからはじめ不安なこと、困っていることなどは機会あるごとに話をお聴きすることから解決をしていくように努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談できる機会を持つようにしています。</p>	

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は御本人様御家族様の意向を必ずお聴きして必要な支援からまず行い。徐々に他のサービスも行うようにしています。相談を繰り返す中で必要な支援を行うようにし安心して生活していただくように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームはいつでも見学できるようにしていますので入居前に御本人様と御家族様と相談して頂き、御本人様も納得して入居していただくように努めています。ホームの雰囲気に徐々に馴染めるようにしていただく為に御家族様とも相談して御本人様の使い慣れた馴染みの物など持参できるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の生活の中で一緒に入居者様職員と食事作りや、行事参加またレクリエーション等で共に活動する中で自然に支えあう関係が築けるようにしています。入居者様とのコミュニケーションをとおして昔の出来事などもお聴きしたり関心されることなどもあります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と一緒に行事に参加して頂いたり、食事をご一緒したりする機会をもうけ共に過ごす中で築けるようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日や父の日、母の日には御家族様よりメッセージを書いていただくことや電話連絡をしたり、手紙を書いて送ったりできるようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方にもホームにきていただいています。また御家族様と一緒に外出できるようにしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	役割活動や行事参加、共にレクリエーションを行い孤立しないように気配りしています。また入居者様同士居室で過ごして頂けるよう椅子を置いています。居室を訪れお話をしたりされています。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移動された方と行事等で時々会えるようにしたり、病院入院で退居された方にはお見舞いに出かけたりしています。お亡くなりになられた方には葬儀に参列しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様と面談し介護者で日々の関わりの中で気づけるように把握できるようにしています。介護記録実行表に気づきを書くようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを利用して御本人様また御家族様にお聴きして把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画実行表を日々記録し食事、睡眠、排泄、バイタルチェック、思いなど把握するようにしています。また申し送り、ミーティングなどで介護者全員が把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月月末はケアプラン会議を開き職員間で話し合います。サービス担当者会議で御本人様や御家族様と話し合いの場を持つようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	御本人様に応じて計画書を見直しつつしています。ケアプラン会議での職員の意見や特に状況変化時はサービス担当者会議を開き御家族様に参加していただき計画書の同意を得ておこなっている状況です。御家族様が仕事や都合で参加できない時は電話で行なっています。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日欠かさず行なっています。介護者の気付きをより具体的に分かるようにに記入の書き方を職員間で勉強しました。入居者様の言葉で書く、具体的な数字で書くなど、より理解できるような書き方を実践し情報をより鮮明に伝え記録を生かせるよう取り組んでいるところです。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物はできるだけホームでおこなうようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員様には運営推進会議でご出席いただき、消防署には消防避難訓練で協力していただいています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	御本人様の希望に応じた美容院、理髪の支援をおこなっています。地域の居宅をそれぞれの方が利用されていました。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには長崎市高齢者健やか支援課と交代で運営推進会議に出席していただくようになりましたので今後協働して行く機会が多くなると思われれます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医また必要な医療に関して御家族様の同意を得て受診支援し結果は報告をしています。電話連絡を行いつつしている状況です。状況しだいでは御家族様同行もお願いすることもあります。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	院長回診が週1回あり相談しています。また協力病院に脳神経外科もあるので必要に応じて受診するようにしています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の外来看護師さんへ電話で気軽に相談しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時はお見舞いに職員と入居者様と出かけて安心していただけるような言葉がけを行なうようにしています。早期退院できるように病院関係者・病棟師長さんと連絡相談しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時は24時間いつでも協力病院へ対応していただくように連携しています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期については協力病院へお願いしています。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ移られるときは他の事業所からの要望があれば御本人様また御家族様の同意を得た上で情報提供しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員には守秘義務の誓約書を取っています。おむつ交換失禁等プライバシーには気をつけドアを閉めて行っています	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	食事の好き嫌いは聞いたうえでそれぞれに応じて対応しています。お買い物に行きたいとき要望に応じています。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入浴、買い物、散歩とその人の状態や思いを大切に柔軟に対応しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	御本人様の要望に応じてしています。	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事の準備は入居者様に野菜の皮むきや、もやしのひげねとり、つぎわけなど個々に応じて自主活動できるように声かけ、材料の準備を職員ともどもおこないます。肉禁や魚禁、好物など一人ひとりの好みを聞きメニューを考え作っている状況です。	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	御本人様の嗜好に合わせていますがお酒もほどほどに、お菓子も食べ過ぎないように気をつけています	

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツやパット使用しできるだけオムツにならないようにしています。ポータブル使用を夜のみ使い昼間はできるだけトイレ使用できるように個々の排泄パターンに応じて誘導をおこなっています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に決めてはしません。失禁する方が多いので清潔保持の為その時々に応じて行ないます		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御自分の部屋で休まれたりリビングで休息されたり、その方々の好きにできるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の皮むき、調理盛り付け、洗濯物たたみ、新聞取り、暦めぐり、楽のみ集めなどそれぞれに役割活動をおこないつつ過ごされています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の要望で買い物へ出かけたときは所持金より必要金額を持ちお買い物できるようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	御本人様の希望や天気に応じて外出、外泊ができるようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年は桜の里へ弁当をもって出かけました。大変喜ばれました。また個人で御友人様御家族とも出かけられました。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は御本人様がかけたい時使用できます。手紙も出したりして楽しみにされています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただけることを入居時に説明しています。自室でゆっくり面談されています。ホーム全体で外出する時は玄関に行き先と帰宅時間を張り紙で知らせています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に身体拘束は行わなくてもいい状況です。また職員には資料を配付し説明し理解するように努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関にも鍵はかけていません。夜間のみ施錠しています。昼間は玄関のセンサーで出入りするときチャイムが鳴るので確認ができます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	2階建てのホームですが1階は全体的に見渡せます。2階もあるので時間ごとの巡視を行います。ナースコールがあるので御本人様から用件がある時鳴らしていただけるようにしています。また日常入居者様の所在、様子、安全は目配り、気配りしつつ介護しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は飲み薬は管理しています。つけ薬はその人に応じて自己管理の人もいます。刃物も同様です。その方の安全に対する理解に応じて自己保管できる方はしていただいています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	急変時対応のマニュアル本を購入しました。勉強会として知識習得の機会を持ち、今後継続して事故防止に取り組んでいきます。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力で年2回心肺蘇生法の研修訓練を実施しています。	○	応急処置の方法に関してはまだ職員の知識をもっと向上できるように勉強会の計画をしています。マニュアルの本を購入して職員が自主学習するようにしています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	神浦消防署の協力で消防避難訓練を行っています。台風情報をテレビで早く得るように努め地域の警報を聞くようにしています。悪天候時は夜勤は2人体制で行うようにしています。	○	地域住民の協力体制はまだ整っていない状況です。運営推進会議で青年団もこの頃は少なくない状況だとのお話がありました。今後のこの地域の課題でもあります。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個別に起こり得るリスクについてはミーティング、カンファレンスで取り上げ検討 ケアプランにも取り上げていきます。またサービス担当者会議で御家族様等に説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝と夕バイタルチェックを行い早期発見に努めています。血圧も3回計る人もいます。入浴時は全身状態をよく観察し入浴者は皮膚の状態など介護記録に記入申し送ります。排便も毎日確認し、異変体調不良の早期発見に努めミーティングで情報を全職員が共有し対応策を決め対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別にカルテにまとめいつでも見られるようにしています。薬が変わったは記録申し送りしていきます。服薬時は名前を声に出して呼び一人ひとりに応じて手渡し確認、介助します。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトか牛乳を飲んでいただくようにしています。体操を一日4回して身体を動かすようにしています。個人でテレビの体操と一緒にするのを日課にされてる方もいらっしゃいます。また自分でできる体操や廊下で歩行訓練をされて体を動かす努力をされてる方もいらっしゃいます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、おやつ後に歯磨きをおこなっています。自立の方、介助の方とさまざまですが皆様よく実施されています。週1回はポリドントにつけこんで洗浄しています。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループの管理栄養士が作成した献立表でバランスのよい食事が提供でき、個人の好みのメニューで調理することもあります。一日の必要な水分摂取にも気をつけ、発熱時はポカリスエットとなど個別に飲んでいただくこともあります。飲み物もその人に応じて温めたりしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具のまな板 布巾類は夕食後ハイターにつけこみます。まな板は野採用と肉用は区別しています。調理する前は手洗い後アルコール消毒します。入居者様も同じです。食材は買いためしないよう新鮮なものを使います。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの庭には椅子を置き自由に座りお喋りできるようにしています。プランターに季節の花を植え楽しめる工夫をしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺は静かですので外部からの騒音は入ってきません。部屋しだいでは夏西日で日差しがはいる所はカーテンでさえぎる工夫をしています。季節感や季節の花を持ち寄り飾るようにしています。カーテンやのれんをさげたりしています。廊下には写真を掲示したり花を飾り工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れるようにソファや椅子を置いています。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方に応じた家具の配置、使い慣れた鏡、時計、カレンダーなどを好みに応じて置いてあります		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気を行います。換気扇は各部屋にあります。ポータブル使用される方もおられますので消臭剤を利用して不快感がないよう気をつけています。温度調節は温度計、湿度計をかけ参考にしつつ利用者様の状況に応じてしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが廊下、トイレ、浴室、階段と取り付けてあり自立できる工夫がしてあります。階段を利用できない方はエレベーターを使用し個々の身体機能に応じて活動するようにしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐために環境をあまり変えないようにしています。、目印にお人形を置いたり、その方に応じて理解できる様に配置を考えたりしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先にテーブル、椅子を置き外で天候のよい時おやつをいただくこともあります。外気浴をしたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

外海はフランスのドロ神父様が宣教に訪れられた際、ソーメン作りや縫製などの技術など地域住民へ教えを広められて古くからフランスとの関わりがあったところで、ホームの名前もフランス語からつけられています。ボンジュールとはフランス語で「こんにちは」の意味です。気軽にホームを訪れていただけるようにアットホームで笑顔で迎えられるように努めています。ボンジュールそとめの理念は①人としての尊厳を尊重します。②地域で安心した生活を支援します。③安全に自立した生活を支援します。この理念到達のために次のような活動をしています。その①入居者さまの尊厳を尊重するため職員研修が行われています。敬語使用を職員に義務付けされています。②ホームの近くの棚田は日本一です。環境も静かでのんびりしたたずまいですがホームは地域交流に励んでいます。小学生の田植えの見学から始まり、案山子祭り、産業祭りに展示物を出品し入居者様の持てる力を生かしそれぞれの方が製作に励み楽しみを持ち生活される事を支援します。また神浦散歩未知と周辺の自然環境にマッチした活動で地域交流に努めています。その③入居者様の安全に気配り目配りを行い身体機能の維持をはかりつつ事故のないように日々努力しています。